



調布大塚小学校

生命を大切にすること

校長 吉野 明

十一月を迎え、各地から紅葉のたよりが聞かれるようになりまし。校庭の木々もうつつすらと色づき、秋を実感するこの頃です。本校の教育への温かいご支援、いつもありがとうございます。

さて、十月後半から十一月始めにかけて、生命尊重週間が位置付けられています。生命を尊重し大切にすることは、いつ、いかなる時でも最優先の課題です。本校でも、教育目標の項目すべての根底にある基本理念です。そして、今年ほど、「生命を大切にすること」を意識した年もなかったのではないのでしょうか。千年に一度と言われる東日本大震災が、その象徴的な出来事でした。二万人もの死者・行方不明者。一瞬の間に家族や友人を失った衝撃や恐怖。筆舌に尽くしがたいものがあります。

さて小学校の教育の中では、直接的に生命の大切さを教えることと同時に、人間を大切にするという幅広い立場から指導を進めています。

まず、自分の生命は自分で守るということです。生命尊重の基本でもあります。しかし、小学校では、そこまでの強い意志や判断力が培われているとは限りません。教師が事例を紹介し、保護者や地域の方々の支援を受けながら、子どもは、自立し、自分への認識を深めます。災害時の避難、防災・防犯体制の仕組み、地域の助け合いの様子などを体験することで、自分の判断力や意志決定能力を高めます。道徳や学校活動などを通して、自分の立場や相互扶助

などを学ぶことが効果的です。

また、他の人の生命も大事にするという視点も欠かせません。友人をはじめ、周囲の人を大事にすることも生命尊重の大切な要素です。大震災の際、多くの人が日本中から東北の被災地へ駆けつけ、ボランティアとして救助活動に参加しました。現地に行けなくても、できることは何でもやりたいと考えた人は多かったと思います。渋谷の街をふらついていた若者が、福島へ駆けつけたという話も聞きました。「自分だけじゃない。みんな生きてるんだ。」という気持ちは、日本のすべての人の心の中に染みこんでいると思います。本校でも、朝時間の遊びや水曜日のとも遊び、生活科や特別活動などでの交流を通して、他の人を大切にする教育を進めています。大事にする、親切にする、助け合う教育は重要な生命尊重教育です。

さらに、生命を大切にするには、健全な社会生活を営むことも必要な要素と言えます。人間として、社会生活を充実し円滑な生活態度や人とのふれあいを築くことが、生命尊重の基盤とも思います。困っている人があれば助け、悩んでいる人がいれば相談する、自分勝手を押さえて共同で生きる気持ちを育てる。これこそ生命尊重教育でしょう。

十一月五日には、学校公開日の中で道徳授業地区公開講座があります。皆様方に生命尊重、社会生活規範などを考えていただける機会になれば幸いです。大震災をはじめ、今年には台風や火事など生命を脅かす事故が多発しました。生命尊重週間を通して、本校でも教育内容を反省し振り返るよい機会になります。

この頃よく言われますが、キーワードは「絆」かもしれません。学校教育で「絆」を深める。来年度の教育計画を考える上での方向性を示しているようです。

十一月の行事予定

二日 (水)	英語活動	×
三日 (木)	文化の日	⊗
五日 (土)	学校公開日・東京都教育の日	×
六日 (日)	道徳授業地区公開講座	×
七日 (月)	振替休業日	⊗
八日 (火)	避難訓練(けむり体験)	⊗
九日 (水)	六年二組以外午前授業×	×
十日 (木)	就学時健康診断(午前授業)	×
十一日 (金)	安全指導 連合音楽会(四年)	⊗
十二日 (土)	読み聞かせ	⊗
十三日 (日)	補習教室	⊗
十四日 (月)	委員会活動	⊗
十五日 (火)	移動教室前健康診断(五年)	⊗
十六日 (水)	伊豆高原移動教室始(五年)	⊗
十七日 (木)	伊豆高原移動教室終(五年)	⊗
十八日 (金)	伊豆高原移動教室終(五年)	⊗
二十日 (日)	学芸会特別時程始	⊗
二十一日 (月)	学芸会特別時程始	⊗
二十二日 (火)	掃除なし時程	⊗
二十三日 (水)	勤労感謝の日	⊗
二十四日 (木)	読み聞かせ	⊗
二十五日 (金)	読み聞かせ	⊗
二十六日 (土)	施設利用者会議	⊗
二十七日 (日)	嶺町文化センター祭り	⊗
三十日 (水)	午前授業	×

○今回の学校公開日には、保護者の皆様に授業評価を行っていただく予定です。当日アンケートを配布しますので、協力お願いします。

六年生より

六年担任 本多 裕太

最高学年としてスタートし、七ヶ月が過ぎました。

一学期の移動教室や先日行われた大きな運動会と大きな行事を立派にやり遂げるこ



スクールサポーターによる
6年 薬物乱用防止教室
自分の体は自分で守ることを強く感じました

た。全ての活動が小学校生活では最後になってしまいます。子どもたちは、最後になるのを寂しく思いながらも、最高の思い出を作ろうと頑張りました。

六年生は、移動教室委員会、運動会委員会、学芸会委員会、卒業文集委員会、卒業アルバム委員会にわかれ、全員が活動の中心になり進めています。現在は、学芸会委員会が演目を話し合い、全体に提案して、先日演目が決定しました。少しづつではあります。練習もスタートしています。最後の学芸会を、六年生全員が協力し、一つの目標に向かう姿はとても頼もしく感じられます。

小学校生活も残り、半分をきりました。子どもたちは、最高学年として頑張っています。六年生全員が胸を張って卒業し、自信をもって新しいスタートができるよう精一杯支援していきたいと考えています。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

五年生より

五年担任 小山 徹

秋も一段と深まり、過ごしやすい季節になりました。休み時間や放課後の校庭では、いつも五年生の子どもたちの元気いっぱいの姿を見ることができま

す。
十一月十六日(水)～十八日(金)の三日間、五年生は、伊豆高原移動教室を体験します。行程一日目は、グランパル公園でアスレチック等の施設で活動し、キャンプファイヤーも行います。二日目は、城ヶ崎海岸のハイキング、大室山の頂上一周、シャボン公園の見学に行きます。三日目は、宿泊する学園内の景色をスケッチします。休み時間の話題にも移動教室のことが多く出てくるようになり、子どもたちが楽しみにしている様子が分かります。

先日のオリエンテーションで、班編成と係分担を行い、準備が本格的に始まりました。これからの係ごとの話し合いや準備では、指示されたことだけを進めるのではなく、リーダーを中心に子どもたち一人一人がアイデアを出し合って主体的に活動できるように支援していきます。移動教室には、「自然の中で思い切り活動する。楽しい集団生活を体験する」という二つのねらいがあります。そのねらいを達成するためには、自分の役割を自覚し、責任をもって行動することや友達やグループのことを考えて行動することが大切になります。今回の移動教室で、伊豆高原の宿舎建て替えのため閉園となり、本校が学園を使用する最後の参加校として、幕を閉じます。普段の学校生活では学べないことを伊豆高原学園の活動を通して学習し、たくさん楽しい思い出を作り、友情を深めて欲しいと思います。

学校公開日・道徳授業地区公開講座について

教務主任 白神 保

学校では、保護者の方に学校に足を運んでいただき、子どもたちの様子を見ていただいたり、子どもたちのことについて話し合ったりする機会を多く設けています。それは、運動会、学芸会、保護者会、個人面談等、様々な形をとりますが、子どもたちの普段の学校生活の様子を見ていただくのが、学校公開日(授業参観)です。昨年度から、各学期一回、土曜日に学校公開を行い、毎回大変多くの方に参観していただいています。

十一月五日(土)は、二学期の学校公開日です。

朝から給食・清掃を含め五校時までご覧いただけますので、多数の地域・保護者の方々のご来校をお待ちしております。保護者の皆さんは、ご自分のお子さんの学級だけでなく、他の学級の様子や学校の施設もご覧いただけるよい機会です。どうぞ、ご自由にご参観ください。また、この日には、全学級において、道徳の授業を公開するとともに、放課後には、道徳授業地区公開講座として、大田家庭教育研究所長の田島身衣子先生をお招きして、講演会を予定しています。講演会にも、ふる



3・4年
多摩川がさがさ体験
小さな生き物をさがして、課題の追究につなげていきます。

も、ふる
つてご参
加くださ
るようお
願いま
す。